

地元産業と分収造林の設定について

| | | | |
|---------------|---|---|---|
| 奈良井・奈良井担当区事務所 | 松 | 尾 | 武 |
| 費川 | 〃 | 宮 | 坂 |
| 経営課 | 〃 | 倉 | 本 |

要 旨

木材関連産業の不況と森林資源の枯渇等から、国有林と地元の結び付きが薄らいできている。このため、国有林を活用して地元産業に寄与する方策はないものかと、昭和55年頃から、地元と折衝を重ねた結果、良質の国産ウルシの安定確保を図るためのウルシ部分林を昭和57年度に設定したもので、その状況について中間報告をする。

は じ め に

当署管内の栢川村は、漆器と曲げものを基幹産業とする木製品の販売で、地域経済が成りたってきた。木材関連産業の不況、地元産業が要求する優良天然林資源の枯渇等から、地域と国有林の結びつきが薄らいできた。このため、村の面積の約5割近くを占める国有林を活用して、地域産業（漆器）と地域林業の振興を図れないものかと、昭和55年度から地元関係者等と調査検討を進めてきた。その結果、漆器の原料である品質の良い国産「生うるし」を地元で作り、木曾漆器のイメージアップと地域経済の発展を図るため、国有林内にウルシ部分林を設定したので、その状況について中間報告する。

I 栢川村の漆器産業

村内の漆の使用量は、17トンで全国消費量の5%に当たり、中国、東南アジアから98%輸入されている。国産ウルシは2%で東北・県内産である。また、漆器に関連した生地の使用量は、表-1のとおりである。

次に、村内の総出荷額は、表-1に示すように漆器産業のウエイトは高い。また漆器産業の就業者を年齢別に見ると10～20代・11%、30～40代・52%、50代以上・37%である。

II 部分林の概況

位置は、木曾郡栢川村字平沢地籍の福沢国有林、105い林小班で、国鉄中央西線、国道19号線から眺望できる。

ウルシ部分林予定地として、適地であるかどうかの検討は、福沢国有林附近に点在する既往のウルシ採取木3本、平均樹高11m、平均直径32cmで、生育状況は良好であるため適地判定の因子とした。

III 調査地の概況

地況等は、図-2のとおりである。プロットは標高別に1プロット当り、面積250㎡、調査木は30本である。

表1

楢川村の漆器産業

昭和56年現在

漆使用量

170t

| | | |
|-----------|-----|-------|
| 国産 | 2% | 3.4 |
| 輸入 (中国ほか) | 98% | 166.6 |

木材使用量

3,267 m³

| | | | |
|-----|--------|-------|-------|
| 国産 | 木質のほかに | 367 | 11.2% |
| 産材 | さわら | 327 | 10.0% |
| | かつら | 224 | 7.5% |
| | せん | 223 | 6.8% |
| | けやき | 152 | 4.7% |
| | とち | 137 | 4.2% |
| | その他 | 707 | 21.6% |
| 輸入材 | ラワン等 | 1,110 | 34% |

製品出荷額

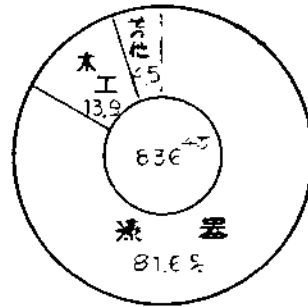


図1

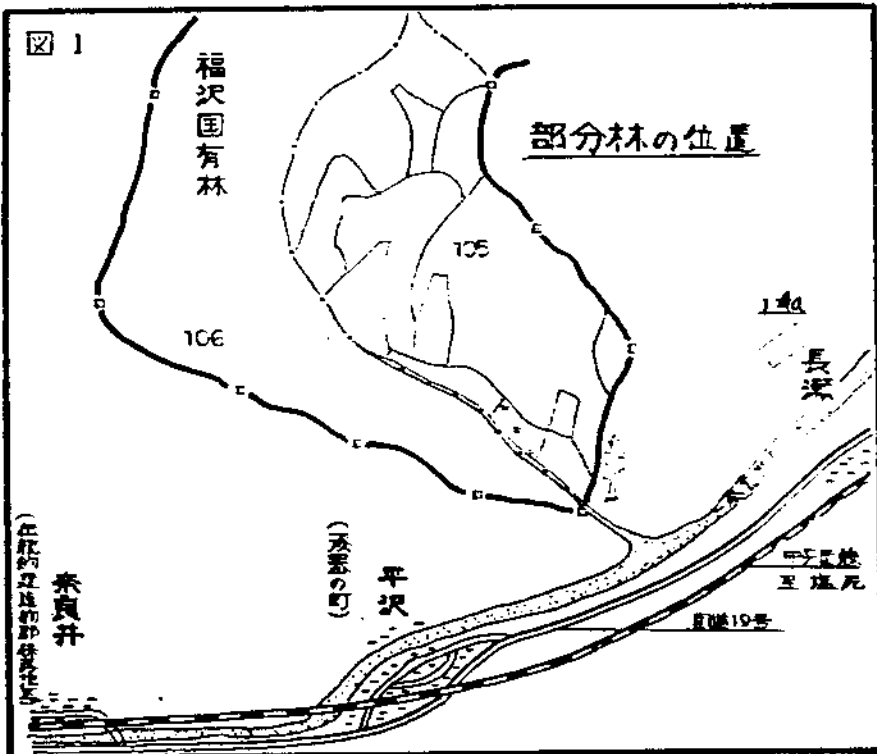


図2

調査地の概況

| | |
|------|--------------|
| 植栽面積 | 1.15 HA |
| ・本数 | 1356 本 |
| 工 種 | B2 (B2* 5種工) |
| 年降水量 | 2066 mm |
| 平均気温 | 14.5 |

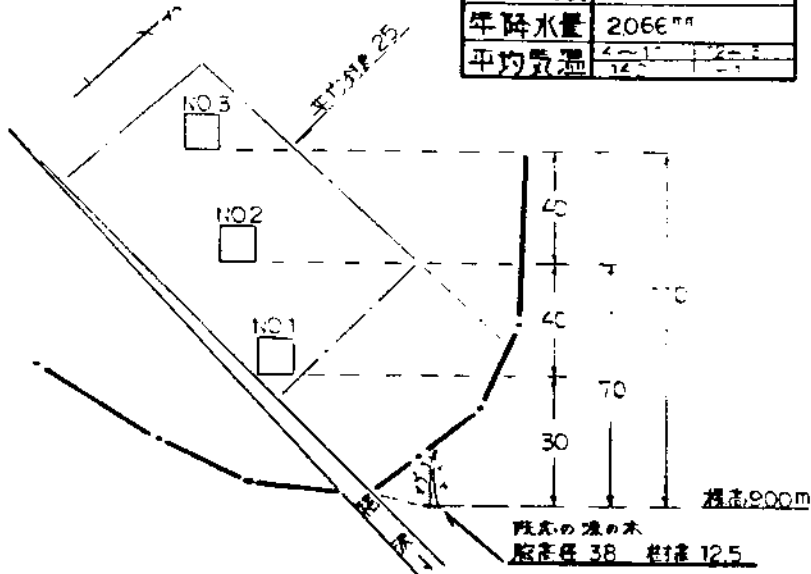
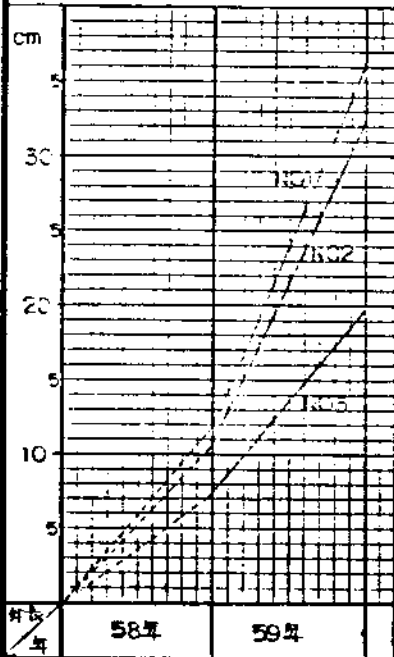


表2

成長調査

樹高



根元径

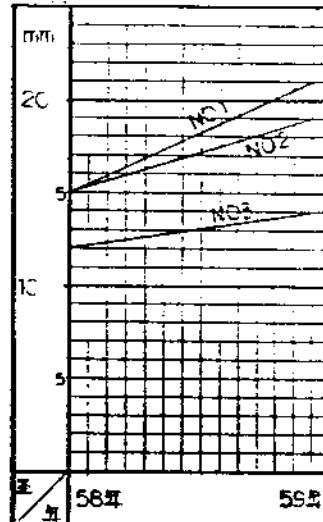
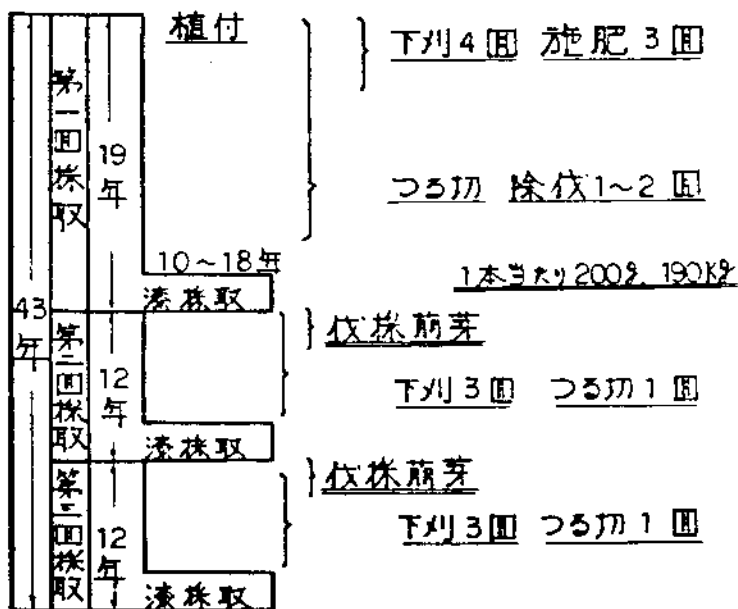


表3

施業計画



IV 生長調査

表-2に示すとおり、高海拔としては一応の成果があった、標高差により生長差があるので、ウルシ部分林を設定する場合は、面的でなく帯状にすれば、よりベターであると考えられる。

ウルシの生長について一般的には、3~4年目頃から樹勢が付き良く伸びるため、第3プロットについても成林する見通しである。

V 施肥効果

ウルシは「土地を選ばない木」と言われ施肥は欠かせないものである。

VI 施業計画

部分林の設定期間は43年で、施業については、表-3のとおりである。

漆の採取期を19年としたが、一般的には直径10cm位から採取可能であることから、この部分林についても、生長経過によっては、かなり採取が早まりそうである。

VII 実行結果

ウルシの植栽地としては高海拔であるが、生育は順調である。また、この部分林を契機として、ウルシ造林地が拡大されると共に、地域産業発展のための当署の対応が、高く評価されている。

おわりに

今回は観察の途中であるが、この分収造林を契機として、地元国有林との協調的な発展の道が開かれた。今後も、ウルシの安定的供給を図るため、適地の提供を含め、地元産業の発展、分収造林の拡大に取組み、さらに木地供給用の広葉樹林施業も積極的に推進したい。